

4. 成長を妨げる“助長”

ひかえたい過保護、過干渉

“学習”とは、まず“まねる”ことであり、次にこれを飽きずに“繰返す”ことであって、それが幼児の本性で

あり、そうせずにはいられないものです。だから、親は子供に良い手本を示してやるだけで、「やりなさい」と言わなくても、幼児は進んでこれをまねし、喜んでそれを繰返しやり、全く飽きることを知りません。それで、幼児は何事によらず、短期間にこれをすっかり身に付けてしまうことが出来るわけです。

ところが、親は、それをずっと眺めていることが出来ないもので、何のかんのと口を出したくなるものですからつい注意し、“楽しいはずの学習”が遂に早く免れたいという“いやな勉強”に変わってしまい、そのため親の意図とは全く正反対の悪い結果に終わってしまうようです。

子供たちの感想を書いた作文を読んでもみますと、「毎日楽しみにしているテレビを見終って、さて勉強を始めようと思っている時、『早く勉強しなさい』と言われることくらいいやな気持ちになることはない。勉強

しようという気持が、その一言で吹飛んでしまう」という意味の作文によく出会います。このことは、どうもほとんどの子供が体験していることのようにです。

「進んで負えば、重荷も重からず」という諺があります。自分から進んで持ってやろうという親切心で持った荷物は、たとえどんなに重い荷物でも、それが少しも気になりません。ところが、人から持つように

コラム



助長

本当は“逆効果を招くような手助け”のこと。出典は『孟子』の「吾、苗を助けて長ぜしむ」という寓話の中の言葉で、自分の畑の苗が隣と比べて成長が遅いのを心配し、早く伸びるよう全て引っ張ってしまったという話。一般には“能力を伸ばすよう助けること”と考えられているが、実はこのような意味がある。

【助】 地上に同じ物を三つ積み重ねた形を表した“且(シヨ)”と“力”の合字。「力を積み重ねる」ことで“助ける”。

且 且 且 助

と言われて持たされた荷物は、軽い荷物でも重く感じられます。これが人情というものです。

だから、“学習”を強制して、いやな“勉強”にしてしまっはいけないのです。

たびたび繰り返して言いますが、“学習”は子供のもともと好きなことなので、放っておいても必ず学習を始めるものです。

それが待ち切れないで強制するのは“せっかち”というものであり、親の“わがまま”と言っても言い過ぎではないと思います。

中国の寓話に「苗の成長を少しでも助けてやろうと思い、畑の苗を一本一本、引っ張って回った」というお百姓の話があります。これが“助長”という熟語のいわれで、有名な話です。苗を引張ったら、成長を助けるどころか枯れてしまいます。こんなことの判らないお百姓がいるはずはありませんが、そこにこの寓話の意味があるわけです。

わが国では良い意味に使われる“助長”という言葉が、中国では、真の成長を妨げるものとして使われています。事実、子供の能力は、保護や干渉が過ぎれば過ぎるほど、その成長が妨げられます。孔子が、詩の大切なことだけを教えて詩そのものの講述をしなかったこと

には、親の陥りやすい“助長”から遠ざかる意図があったように思われます。

コラム

豆知識

始めと初め

どちらも同じ意味の漢字なので、どちらを使ってもよい。ただ習慣上、最初という時には「最始」とは言わないし、年始の時も「年初」とは言わない。“はじめ”という場合、女性の胎内に子供が宿るのが人間の始りという意味で作られたのが、「始め」。一方、着物を着る時の一番初めに布を裁断する、つまり布を作る場合の初めという意味で作られたのが、「初め」である。どちらも同じ“はじめ”を表すが、習慣上、名詞の時には「初」を、動詞の時には「始」を使うことが多い。